



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

| 日付 | 資金需給予想 | | | 主な要因 | オペ期日 | オペスタート | イベント |
|-----------|---------|----------|----------|-----------------|-----------------|--------|--|
| | 銀行券要因 | 財政等要因 | 資金過不足 | | | | |
| 10/7 (月) | + 400 | + 4,900 | + 5,300 | 国庫短期証券発行償還 (3M) | 国債補充供給 + 11,200 | | 日：地域経済報告 (さくらレポート、10月) ：景気先行CI指数 (8月) 欧：ユーロ圏小売売上高 (8月) |
| 10/8 (火) | トン | + 2,000 | + 2,000 | | | | 日：貿易収支 (8月) ：毎月勤労統計 (8月) 米：貿易収支 (8月) |
| 10/9 (水) | トン | ▲ 6,000 | ▲ 6,000 | 国債発行 (30年) | | | 日：臨時国会会期末、衆院解散 米：FOMC議事要旨 (9月17、18日開催分) |
| 10/10 (木) | ▲ 1,000 | + 5,000 | + 4,000 | 国庫短期証券発行償還 (6M) | | | 米：新規失業保険申請件数 (10月5日終了週) ：CPI (9月) |
| 10/11 (金) | トン | ▲ 25,000 | ▲ 25,000 | 国債発行 (5年) | | | 米：PPI (9月) |

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆1,300億円増加の549兆4,300億円から始まった。その後、税上げや国債発行等の要因により減少し、4日は540兆500億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.225%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.227%~0.30%のレンジ、1M~3M物0.29%~0.35%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、10月7日に地域経済報告 (さくらレポート) の公表。海外では10月9日に米FOMC議事要旨 (9月17、18日開催分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

| | 予想レンジ (%) |
|-----|--------------|
| O/N | 0.22 ~ 0.227 |
| 1M | 0.29 ~ 0.45 |
| 2M | 0.30 ~ 0.45 |
| 3M | 0.30 ~ 0.45 |
| 6M | 0.45 ~ 0.65 |

<レポ>

足許GCは週を通して+0.23%~+0.25%のレンジを中心に推移した。3m短国が発行された週末も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年460~464回債、5年149~172回債、10年350~376回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,200億円で、週間償還額の3,200億円を上回った。発行残高は先週末時点の24兆6,401億円から、10月3日時点で23兆4,724億円に減少した。発行市場は鉄鋼、機械、石油製品、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%台前半での出会いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、8,700億円となっている。発行市場は、期明けによる企業の底堅い調達意欲により、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出会い、3M超の案件については0.30%台前半~0.30%台後半での出会いが散見されるであろう。

<TDB>

4日の3M (1260回債) の入札は、最高落札利回り0.0202% (前回債0.0365%)、平均落札利回り0.0073% (前回債0.0047%) となった。

来週の入札は、9日に6M、11日に3Mが予定されている。

[オープン市場]

| | 予想レンジ (%) |
|------------|-------------|
| 現先 (on/1w) | 0.12 ~ 0.20 |
| CP 3M | 0.30 ~ 0.50 |